

夏の味覚「なし」のシーズン到来を前に 平成30年度愛知県なし現地研究会 開催

7月4日、平成30年度愛知県なし現地研究会を西尾市で開催します。愛知県果樹振興会の主催で、なし生産農家の技術の研鑽等を通じて生産振興を図ることを目的としています。愛知県内の梨の生産者や部会担当者など約200人が参加して栽培知識の向上を図ります。

【開催日】7月4日（水）

◆現地視察

【時間】午前10時～午前11時30分

【場所】 齋藤 光俊 氏園（西尾市吉良町津平）
星野 重春 氏園（西尾市吉良町宮迫）

※取材される報道機関の方は、JA西三河企画課の尾形までご連絡ください。

※現地視察は、2カ所の園地で10時より同時に実施します。参加者はA班・B班に分かれて、両方の現場を視察します。

※雨天等天候不順の場合、現地視察を行わない場合があります。その場合には、事前に取材のご連絡を頂いた報道機関の方にはこちらからご連絡いたします。

◆研究会

【時間】午後1時～午後3時30分

【場所】西尾市文化会館（西尾市山下町泡原30）
午後1時 開会

主催者あいさつ

（愛知県果樹振興会なし部会 鈴木 康弘 部会長）

来賓祝辞

（西尾市産業部農林水産課 加藤英之 課長）

（西三河農業協同組合 都築敏和 常務理事）

産地紹介

午後1時30分 講演

講師：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門 生産・流通研究領域 病害ユニット長 足立嘉彦氏

内容：「黒星病の防除対策について」

現地視察の会場のご案内

※近くには、現地視察会場の看板が設置してあります。



※齋藤さんの方が大通りからすぐのところの圃場があり、駐車スペースが広く確保されています。



西尾市の梨生産について

J A西三河梨部会では、平成30年2月の定期総会にて『三河梨』から『西尾梨』へ名称変更をしました。産地化を見据えた地域ブランドの確立により、消費者への訴求力向上を期待し、他産地との差別化による付加価値を高めます。あわせて30年度作より、同部会と別組織で集出荷のみ行っていた三河梨集荷センターとの運営を統合し、事業の集約化を図ります。「西尾梨」の出荷初年度となる今年は、J A高河原センターによる産直販売（8～9月）や西尾市役所での共進会・即売会（9月）に力を入れ、『西尾梨』の認知度向上に取り組みます。

また、梨ひとつひとつに袋をかける「有袋栽培」や「交信攪乱剤（性フェロモン剤）を使用した環境に優しい防除」など、産地全体で取り組んでいることも特徴の一つです。

■有袋栽培

産地全体で有袋栽培を行っているのは、西三河地域では西尾市だけ。6月頃に梨ひとつひとつに手作業による袋かけを行い、収穫期まで袋の中で大切に育てます。

《袋かけには、大きく3つの効果があります！》

- ・果皮の仕上げを美しくする
- ・病害虫被害を防ぐ
- ・農薬使用量・回数を抑える



（交信攪乱剤）
フェロモントランプ

こうしんかくらんざい

■交信攪乱剤（性フェロモン剤）の利用

西尾市内では、平成23年より交信攪乱剤の設置により、梨の芯を食害するシンクイムシ類の繁殖を抑え、化学合成農薬の使用回数を減らした環境に配慮した梨づくりに取り組んでいます。

「交信攪乱剤」とは、害虫の雌が放出する性フェロモンと同じものを大量・継続的に空気中に放出し、成虫の交尾行動を攪乱して雌の交尾率を低下させることにより、産卵密度の低下をねらい、間接的に幼虫の密度抑制を期待する防除法です。

【生産者部会情報】

名 称：J A西三河梨部会（中嶋芳雄部会長）

⇒西尾市内の西尾市梨業組合と吉良町梨業組合が合併し、平成26年3月に発足

部会員数：67人

耕作面積：約18畝

収穫時期：「幸水」7月下旬～8月中旬／「豊水」8月下旬～9月中旬
「新高」9月下旬～10月上旬／「あきづき」9月中旬～9月下旬

年間生産量：約120～150トンを生産

※こちらは平成29年度作 J A西三河・J Aあいち中央共計のデータです。

《内訳》「幸水」63%、「豊水」27%、「新高」3%、「あきづき」7%

※こちらは平成29年度作 J A西三河管内のデータです。

流 通：安城市のJ Aあいち中央の選果場より、J Aあいち経済連を通して主に県内の市場（名古屋方面）や地元向けに出荷しています。

◆全国の梨生産量 24万5,400トン
（全国1位：千葉県 3万2,000トン）

◆愛知県の梨生産量 5,280トン
※農林水産省 大臣官房統計部 平成30年2月13日公表より